## 彩小ふれあいだより

## 4年生社会科 昔のくらし~彩の会

平成22年9月28日 広島市立彩が丘小学校 校長 竹 川 智 子



9月8日(水)3・4校時、4年生が、彩の会の皆さまに来ていただき、社会科「昔のくらしについて知ろう」の学習をしました。古くからある暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子を知るというねらいです。この学習は、彩の会の方が寄贈してくださった品々や河内地区の農家から軽トラで借り受けてきてくださった農機具で学習が行われます。

さて、当日、多目的教室は、田植えや稲こぎ、草とり、わら切りなどの農機具、石臼、天秤棒、さおばかり、ランプ、たらい、おけ、俵、むしろ、お金、教科書など、昔の道具がたくさん展示されていました。子どもたちは入るやいなや古い道具の数々に「わ~」と声をあげました。

はじめに、それぞれの道具が、何に使われていたものか、今でいうとどんな道具になっているものか、三好寿子さんの進行により、順々に解説をしてくださいました。クイズ形式で進みます。名答、珍答も続出し、笑いあり拍手あり、楽しく学習が進みました。

次に、グループに分かれて、それぞれの道具の体験をしました。天秤棒で水を運ぶ体験をしてみたら、肩は痛いし、慣れない姿勢でバランスをとるのもむずかしく、昔は水汲みを子どもの仕事にしていたと聞いてさらにびっくり。重い石臼をごりごり回すとさらさらの白いもち粉ができ、それを少しなめさせてもらってはうれしいそう。ゲートルを足に巻かせてもらったり、昔のお金の精巧なつくりにびっくりしたり。玄米を一升瓶に入れぬかをとる作業はなかなか簡単には白くならないのにもびっくり。原爆アニメ「はだしのゲン」の中で、ゲンがしていたと気づいた子もいました。100年前にタイムスリップしたような体験をたくさんさせていただきました。

このような授業の中で、地域の方をゲストティーチャーとしてお招きし、子どもたち一人一人が地域の皆さまと交流をし、心を通わせること。これは、地域の中に顔見知りをつくり、ひいてはふるさとを大切にする心を育てることにもつながります。積極的に"出会い"をコーディネートするのも学校の役割と思っています。彩の会の皆さんのご尽力でこのような学習会をもつことができました。彩の会の皆さま、心より感謝しております。ありがとうございました。





